

## 唐古・鍵考古学ミュージアム イベント情報

唐古・鍵考古学ミュージアム ☎ 34-7100  
※月曜日は休館

### 夏休み親子入館無料



夏休みの自由研究に、今年の夏、ぜひミュージアムへお越しください。

※中学生以下の子ども 1人につき保護者 1人無料

**日時** 7月20日(水)～8月31日(水)午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

※7月23日(土)～29日(金)午後2時～3時30分の間、唐古・鍵考古学ミュージアムで学芸員が自由研究に関する質問に答えます。ドシドシお越しください！

### はにわの貯金箱づくり



粘土ではにわの貯金箱を作ります。

**日時** 7月27日(水)  
午前10時～正午

**集合場所** 唐古・鍵考古学ミュージアム前

**対象** 小学4～6年生

**募集人数** 16人 (先着順)

**材料費** 200円 (当日受付時に支払い)

**申込** 7月12日(火)から唐古・鍵考古学ミュージアムへ直接または電話で。

※作品は乾燥後焼成します。8月18日(木)以降に唐古・鍵考古学ミュージアムで受け取れます。

### チャレンジ！自由研究！！

#### ～身近なナゾを解くコツ、教えます～

身近なナゾを考えたり調べたりするプロが、自由研究のコツを教えます。

**日時** 8月12日(金)午前10時～11時30分

**集合場所** 唐古・鍵考古学ミュージアム前

**対象** 小学3～6年生

**募集人数** 15人 (先着順/保護者参加可能)

※保護者は参加人数に含めません。

**内容** 橿原市昆虫館学芸員と唐古・鍵考古学ミュージアム学芸員による「地元や、身近な自然にある謎の考え方」、町図書館職員による「図書館の本の調べ方のレクチャーと実演」

**申込** 7月12日(火)～31日(日)に唐古・鍵考古学ミュージアムへ直接または電話で。

## Interview

——発見したときどう思いましたか。

「信じられない！ありえない！！」というのが正直な感想です。初めは、鉢の部分が見えていただけでした。あまり見覚えのない造形でしたので、何の埴輪なのか全く見当が付きませんでした。もう少し掘り進め、草表現の線刻が見えてきたところで、継体天皇陵けいたいてんのうりょうとも言われる今城塚古墳いましろづかこふん（大阪府高槻市）で見た太鼓形埴輪と似ているなと思いました。ただ、この古墳から出てくるはずがないと思ったので、その確証が持てませんでした。全貌が明らかになったときは信じられない気持ちでした。何よりも、1500年前に現代と変わらない姿の太鼓が存在していたことに驚きました。今聴く和太鼓の音色は、古代も同じだったかもしれません。

——なぜ、この古墳から出てくるはずがないと思ったのですか。

太鼓形埴輪の出土は全国的にも例がかなり少ないうえ、今城塚古墳のような大王墓や、地方の中核となる豪族が葬られたと考えられるような古墳からでした。これらでは、大王や豪族の葬送儀礼の様子をさまざまな埴輪で表現していて、太鼓形埴輪もその一部として並べられていたと考えられています。

これらに対し、宮古平塚古墳は小規模な古墳であり、そこからこの埴輪が見つかったことはかなり特異です。古墳の被葬者の生前の職業が関係している可能性もあるかもしれません。

——この発見で期待することはありますか。

今回、初めて太鼓の全容がわかる発見によって、太鼓形埴輪が注目され、これまで不明とされていた埴輪が太鼓形埴輪と認められて資料が増えることで研究が進んでいくことを期待しています。また、日本の音楽史の中での位置づけが進んでいくことも望まれます。



文化財保存課 技師 渡瀬 加奈子

長さ 28.0cm

胴部径 25.0cm

叩き面径 17.5cm

# 完全な形の出土は全国初 太鼓形埴輪

令和4年4月に行われた宮古平塚古墳みやこひらつかこかんの発掘調査において「太鼓形埴輪」が出土しました。太鼓形埴輪の出土は全国で4例目となります。完全な形での出土となり、当時の太鼓の形状がわかるものとして全国初の発見となります。

☎文化財保存課 ☎32・4404

### 新発見の古墳

宮古平塚古墳は、大字宮古の西部での調査で見つかりました。調査は古墳の一部にとどまるものの、古墳本体（墳丘）の一边が約20mの方墳で、北西側にテラス部（造り出し）が付くと想定されます。古墳には周濠と呼ばれる濠が巡り、それを含めた全長は約40mになります。造られた時期は6世紀前半（古墳時代後期）です。

ここは小字名が「平塚」であり、もともと1893年（明治26年）の『大和国古墳墓取調書』では、周囲を田に囲まれた塚として記録されている土地です。調査前は、塚の形状や場所が不明瞭となっていました。

しかし、今回の発掘調査で周濠が見つかり、また多くの埴輪が出土したことから、古墳であることが確認できました。新発見のこの古墳は「宮古平塚古墳」と命名されました。

### 太鼓の形をした埴輪

古墳の周濠からは、太鼓形埴輪をはじめとして、馬形や盾形など、さ

さまざまな形をした埴輪が出土しました。

太鼓形埴輪は、円筒状で中央がやや膨らみ、両側面に革を鉄止めした表現のある写実的なもので、現在の和太鼓とほぼ同じ形であることがわかります。中央に大きくあけられた穴は、形を作るときや焼くときの破損を防ぐためと考えられます。

太鼓のみの埴輪は、これまで全国でも宮崎県、大阪府、和歌山県において3例しか見つかっておらず、いずれも破片でした。和歌山県の例では、太鼓形埴輪の近くから撥はらを持つ人の腕の埴輪が出土したことから、太鼓とそれを叩く人物の様子を表していたと考えられています。

今回の宮古平塚古墳において、太鼓形埴輪は古墳の周濠に転がり落ちた状態で発見されました。残念ながら現時点では人物の埴輪は確認されていませんし、この埴輪がもともとどのような状態で古墳の上に飾られていたのかは分かりません。おそらく太鼓を据えるための台座があり、その上に置かれていたと想定しています。